安満遺跡公園 パークセンター

世界一美しい『パークセンター』を目指して

建物概要

■所在地：高槻市八丁畷町
■建築主：独立行政法人都市再生機構
　　西日本支社・高槻市
■設計者：株式会社 INA 新建築研究所
　　西日本支社
■用　途：その他（体験学習施設）

■敷地面積：11,463.15 ㎡
■建築面積：2,638.41 ㎡
■延べ面積：2,468.68 ㎡
■構　　造：鉄骨造
■階　　数：地上 1 階
■CASBEE 評価：A ランク／BEE 値 1.5
■重点評価：CO_2 削減 3.5／省エネ対策 3.7
　　みどり・ヒートアイランド対策 3.5

建物の前面の芝生広場より

安満遺跡公園 パークセンター【鳥瞰】

エントランスホール
「交流休憩スペース」

【立地、周辺環境】

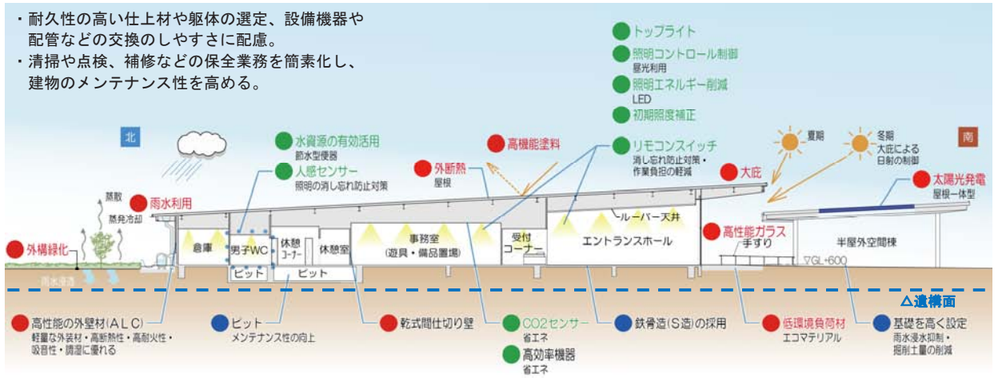
建設地は南北を鉄道に挟まれた安満遺跡公園内に立地。西側には、市役所や大学施設、商業施設、集合住宅等の高層建物が建ち並ぶ中心市街地、公園周辺は住宅地が隣接し、さらにその奥に自然豊かな山並みを望むことができる。緑豊かな遺跡公園として、生まれ変わりました。

【総合的なコンセプト】

「世界一美しいパークセンター」を目指して
高槻市の新しいランドマークにする事を目標に公園整備事業がスタートし、コンセプトは「世界一美しいパークセンター」を目指して作る事でした。
誰もが自然と立ち寄りたくなる、広大で緑豊かな公園に相応しい、景観を全て取込む建物としています。
建物内外に地域産木材や木質系の素材を壁・床・天井等、数多く採用し、「自然のぬくもり」を感じる空間づくりに配慮しました。
この安満遺跡公園 パークセンターに立ち寄る全ての人が笑顔でくつろぐことができる、歴史・文化が息づく「人々の活動拠点」となりました。

建物断面構成図

・耐久性の高い仕上材や躯体の選定、設備機器や配管などの交換のしやすさに配慮。
・清掃や点検、補修などの保全業務を簡素化し、建物のメンテナンス性を高める。



エントランスホール

全天候型「子どもの遊び施設」【屋内】

全天候型「子どもの遊び施設」【屋外】

全天候型「子どもの遊び施設」【屋外】

環境配慮事項とねらい

市民に愛されつづける「安満遺跡公園とパークセンター」へ

本公園では、つくり込まず、時代やニーズに合わせて変化させていく“ハーフメイド”エリアを設定し、計画段階から将来にわたって、市民とともに育てていく、成長する公園づくりに取り組む。

■目標像
○歴史資産の保全・活用
○地域防災力創造の場
○みどり豊かな景観・環境の創出
○成熟化社会に向けた公園
○高槻版市民が育てる公園づくり

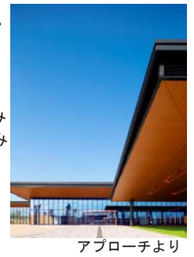
1. 環境保全と景観配慮

■歴史遺産の保存【 環境配慮・遺跡保存 】
・建設地は弥生時代の環濠集落跡等が国史跡安満遺跡として国から指定。（約 12.8ｈａ・平成 5 年，23 年指定）。
・遺構面を守るため、公園全体を盛土し歴史遺産の保護･保存を図った。また、遺構面への配慮として建物の床レベルを高くし、基礎･配管ピットを必要最小限に設定した。

出土した農具

■周辺環境へ配慮【 環境配慮 】
・北側住宅街への配慮として、南側を正面としたことで騒音・光害対策を行った。また、建物高さを低くし、採光・日影対策を行い、周辺環境へ配慮した。

■美しい景観への配慮・景観に溶け込む工夫【 景観配慮 】
・公園エントランスからは綺麗な山並みが望め、周囲に山並みを邪魔する建物もない。雁行した形状と屋根勾配は、山並みと周囲の景観を意識したデザインとした。
・建物 3 面の大型カーテンウォールが、景観を映し込む鏡の役割を果たし、広大な緑・時間や季節の移り変わりを雄大に感じられる空間とした。


アプローチより

■建物スケールへのこだわり【 大庇・地域産木ルーバー 】
・人間工学に基づき、人がダイナミックと感じる高さや大きさを検討し、庇の出を最大 5.5m，エントランスの天井高 5.5m，空間面積 500 ㎡とし、屋根勾配と室内のルーバー勾配を統一させ、内外の一体感を創出させた。

■構造美へのこだわり【 景観配慮-外観・構造デザイン 】
・本体建物と屋根付き広場（附属棟）は統一感を出すため、外部から見える柱スパンを全て同じグリッドとし、屋根・軒裏の仕上げや形状・柱の色や大きさ・人工芝等の要素・リズムとバランスを統一。構造的にメンバーも統一化し、調和を図った。

■照明へのこだわり【LED･調光センサーの導入】
・公園の照明計画と連携させ、色温度は外部から見える事務所もすべて 3000Ｋで統一。建物全体に統一感を出し、ぬくもり・華やかさを演出。配光計画は、壁・天井・庇面をきっちり発光させる事で建物全体が浮かび上がるような計画とした。
・公園と言う立地もあり、建物周囲に邪魔をする光が一切なく、暗闇にきれいに輝く宝石箱のようでとても幻想的な建物へ。※防犯対策として、夜間もライトアップ。

大屋根と落着いた色調のファサード（夜景）

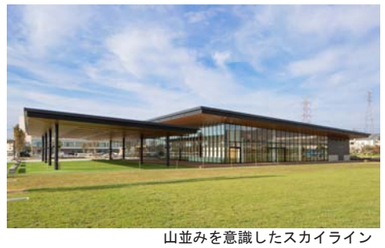
2. 災害対策

■災害時における防災機能
本公園の防災機能は、下記の 4 点とする。
□広域避難地としての役割
・避難圏域の住民が避難できる避難ｽﾍﾟｰｽを確保
□防災拠点としての役割
・市内の活動場所へのアクセスなどを考慮してボランティア拠点を配置。
□応急仮設住宅建設地としての役割
・有事の際にはｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽを活用。
□ｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽを臨機応変に活用
・広大なｽﾍﾟｰｽがあることから、物資の集積や災害瓦礫の集積所等、その時点に応じ、臨機応変に活用できる場所とする。

3. 高槻市産材の活用

■木材で「あたたかな空間づくり」へ
・エントランスホール 天井木ルーバーや家具等に地域産木材を豊富に取り入れ、手の触れる位置に多く採用し、来館者に木々のぬくもりと親しみやすさを感じられる空間づくりとした。

木のあたたかみを感じるエントランスホール


山並みを意識したスカイライン